

謎のロシア、魅惑の文化

ロシア文化史への新しいアプローチ

日時 2020年2月15日(土) 午後3時~6時20分

場所 東京大学本郷キャンパス 法文2号館2階文学部1番大教室

* 一般公開、入場自由(無料)、事前予約不要。どなたでも参加していただけます。

『ロシア文化事典』(丸善出版)が昨年10月に出版されました。205名のロシア研究者・実務家がテーマごとに分担執筆した大規模な事典で、現代ロシアの歴史、自然、文化・芸術、社会生活を広く俯瞰した力作です。

シンポジウムでは、ロシア文化事典の魅力を読者や執筆者がそれぞれの視点で語り合います。ロシア文化に関心のある方はどなたでも参加可。是非、ご参集ください。

「ロシアはいまだに大いなる謎であり続けている。日本人にとって、ロシアは第一に、重要な隣人である。しかし隣人であるというのに、その素顔はあまり知られていない。それゆえどうしても、実態に必ずしも即していないさまざまなイメージが一人歩きしている。本事典は、国内外で活躍する研究者や実務家205名ら、ロシア研究者の総力をあげて編集&執筆した意欲作である。これまでの蓄積と最新の研究動向を反映し、ロシアの多彩な側面を広く深く解説することを目指した。ワンテーマ1見開き完結でどこから開いても興味深く読んでいただける一冊(丸善ホームページより)。『ロシア文化事典』A5版、886ページ、ISBN978-4-621-30413-6(本体20,000+税)

プログラム

総合司会 沼野恭子(東京外国語大学)

3:00 開会の挨拶 編集代表:池田嘉郎・沼野充義・望月哲男 / 丸善出版:佐藤日登美

3:10-3:35 ここが面白い!『ロシア文化事典』 東京外国語大学 沼野恭子ゼミの院生・学生たち(魚住光泰、安島里奈、マリア・プロホロワ、石原知佳、土田真紀子、滝本理貢)

3:35-3:55 アプローチ① 竹田円(翻訳家)「ロシアの黒人」フレデリック・トーマスの波瀾万丈の人生
*アレクサンドロフ著『かくしてモスクワの夜はつぐられ、ジャズはトルコにもたらされた』(白水社)をめぐって

3:55-4:15 アプローチ② 鴻野わか菜(早稲田大学) ロシア現代アートと宇宙

4:15-4:30 休憩

4:30-4:55 あたらしい人たちとあたらしい事典をつくる 池田嘉郎+村田優樹+松本祐生子(東京大学)

4:55-5:20 アプローチ③ 亀山郁夫(名古屋外国語大学)
《二枚舌》と真実——シヨスタコーヴィチとスターリン

5:20-5:45 アプローチ④ 望月哲男(中央学院大学)

『戦争と平和』と『罪と罰』——二人のロシア作家について考える

5:45-6:15 質疑応答・討論、閉会の辞

主催 東京大学文学部現代文芸論・スラヴ語スラヴ文学研究室

協力 丸善出版(株)、JIC 国際親善交流センター&ジェーアイシー旅行センター(株)